

町政をただす



こん かつ よし
今 勝吉 議員

問 ウェスパ椿山閉鎖後について

答 物産館(コロボックル)は、情報発信の拠点施設として活用。その他の施設の活用方法は協議中

問 今議員

① ウェスパ椿山の閉鎖に伴う今後の施設運営管理と職員・従業員の再就職の状況について伺う。

② ウェスパ椿山閉鎖における今後の町全体への受け入れ体制の整備をはじめとした具体的な誘客促進策と観光振興をめぐした取組について伺う。

答 町長

① 物産館(コロボックル)は、JRウェスパ椿山駅と併設しており、リゾート列車も停車することなどから、物販販売も兼ねた町の情報発信の拠点施設として活用を考えている。

その他の施設については、経営課題や地域課題など、中長期的なサポートを行う会社を通じて、施設の活用方法について協議中です。

ウェスパ椿山施設の再生には、財政負担の軽減、抑制の観点からも民間の資金を活用した整備が望ましいのではと考えている。

ウェスパ椿山で働いていた



▲物産館(コロボックル)

従業員の状況については、11月末の状況で部署異動(バス事業部への異動)が3人、退職意向が3人、内定者が18人、未定者が17人です。町では、独自の支援制度も策定し、町内事業者が採用した場合、来年度までの期間1人当たり、ひと月最大8万5千円を助成することとしている。また、ハローワーク等と連携し、求人情報の提供をしていきたい。

② 当町における観光資源は、北前船が残した「歴史と文化」、深浦マグロやふかうら雪人参に代表される「地域食

材」のほか、特に優位なものとして「世界自然遺産白神山」と「十二湖」がある。今後の観光振興の重点施策として、ハード・ソフトの両面から個人旅行に対応した十二湖の再開発を計画しており、二湖で活動するガイドの会やしらかみ十二湖株式会社等と連携して、十二湖の情報発信に努め誘客促進を図っていく。

町政をただす

新型コロナウイルス 感染拡大の対応に ついて

問 今議員

① 新型コロナウイルスのクラスター（集団感染）に伴い、当町でも1人の感染が確認されたが、保健所や医療関係者はどう対応してくれたのか。また、町はどこまで対応したのか。

② 陽性者1人で済んだが、濃厚接触者が陽性となった場合の町の体制はどうであったのか。また、議会への情報公開をどう考えていたのか。

③ 新型コロナウイルスの影響で落ち込む地域経済を活性化するため、新たな6次産業化への投資で、付加価値を生み出す消費の拡大を展開するべきと思うが、町の考えを伺う。

④ 今までの自らの対応を検証し教訓を今後にかすすべきと思うが、町長の考えを伺う。

答 町長

① 感染者発生後の対応は県の役割で、感染者の入院等の調整や職場・家族の相談対応、濃厚接触者の選定と検査の指示等を行っている。当町の感染者は五所川原保健所の指示の下、入院することになり、感染拡大防止対策が講じられた。県から町への応援要請・支持はないが、町民の不安が膨らみおそれがあるので、関係各所へ対応を指示し、誹謗中傷することがないように注意喚起をした。

② 今回のように感染者が当町の住民であっても、町は県が公表する内容のみの情報しか把握できない。今回は、感染者本人より早期の段階で連絡をいただいたことで町も把握することができたが、全ての患者発生を町が把握できる状況にはない。これは、感染者本人に対する誹謗・中傷を避けるための県の方針で、そのため、議会に対しても県が公開する情報以外は公開できないので、御理解をいただきたい。

③ 当町における地域6次産業化の取組は、新型コロナウイルスの影響により、食品市場のトレンドや食スタイルに大きな変化が見られていることから、需要動向を見極め、新たな展開を模索するとともに、民間事業者の新たな取組や提案を受けながら、コロナ禍における消費ニーズの把握に努め、適切な支援をしていきたい。

④ 町では、新型コロナウイルス感染症が町民に重大な影響を及ぼすおそれがあるとして、緊急の会議を含め十数回の対策本部会議を開催し、町民への経済的支援をはじめ、商工、観光、農林水産事業者への支援などにより、一定の効果があつたものと考えている。

現在も、第3波と呼ばれる感染拡大傾向にあつて、まだまだ終息が見えない状況にあることから、更なる対策強化に努めていく。



町政をただす

松くい虫・ナラ枯れについて

問 今議員

松くい虫被害発生は一部地域で抑えられつつも、ナラ枯れ被害は急拡大している状況である。松くい虫とナラ枯れの被害は来年も危惧されるが、町は被害防止対策にどのような取り組みでいくのか伺う。

答 町長

被害対策については、県が主導となり、伐倒・くん蒸処理などの対策に取り組んでいる。町としても、被害木の調査並びにパトロールの強化を図るとともに、林地台帳を基に被害地の情報提供を確実に行うなど、関係機関と連携を図りながら対策に取り組んでいく。



▲松くい虫被害木



▲松くい虫(マツノマダラカミキリ)
(写真提供 林業研究所)



▲ナラ枯れした樹木

新たな生活様式に対応した地域交通体系について

問 今議員

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、地域の移動ニーズに対応して導入するコミュニティバスの交通体系をどのように考えているのか伺う。

答 町長

高齢化率が県内トップクラスにある当町においては、日常生活における足の確保が必要不可欠であることから、既存の岩崎方面を運行していた診療所バス、ゆとりバスを統合する形で運行することとしており、地域住民の様々な需要に応えることができる「日常生活の足」として運行することを想定している。

今回のコミュニティバスは、これまでより運行日と運行回数を増やし、新型コロナウイルス感染症に対する予防対策も充実させる予定です。



▲大間越から崎の町を運行しているコミュニティバス



▲深浦本町を運行しているコミュニティバス
※崎の町は対象外

町政をたどす

観光スポット大岩 エリアについて

問 今議員

大岩への国道横断（交通安全対策）、その後はどうなっているのか。また、遊歩道となる海浜地の漂着物の対応をどのように考えているのか伺う。

答 町長

交通事故防止の観点から、町が鰯ヶ沢警察署に横断歩道の設置を要望したところ、ファミリーマート周辺の交通量調査を経て、横断歩道の設置が必要との判断により、設置を来年夏以降すると伺っているが、観光客のためにも1日も早く設置されるように努めていく。

大岩遊歩道の海岸漂着ごみの撤去については、5月から12月までの期間、会計年度任用職員2人で町内全域の海岸を巡回し、漂着物の回収撤去等を行っている。また、大量の漂着ゴミは、業者委託によ

り処理している。大岩周辺は、観光スポットとして注目されており、観光客が多いことから、周辺の自然景観に配慮しつつ、海岸漂着ゴミの回収に努めていく。



▲大岩周辺に漂着したごみ

新型コロナウイルスによる財政悪化の対応策について

問 今議員

地域経済の停滞による税収の落ち込み、地方交付税の減少が予想される中で、財政悪化への対応策をどのように考えているのか伺う。

答 町長

新型コロナウイルスの影響により、地域経済の停滞と税収の落ち込み、そしてその税収を原資として配分される地方交付税の減少が予想される。年末に発表される正式な「令和3年度地方財政計画」の内容をしっかりと分析しながら有効な財政対策を探って、今回の事態で再認識した将来への備えの重要性に鑑み、公共施設の統廃合や経常経費の削減、適正な人事配置、補助金の見直し、民間事業者との連携等を通して、財政健全化への取組を並行していく。

答 町長

新型コロナウイルス感染症への対応は、今後も続いていくとの認識の下に、国・県の支援策と協調しながら、必要に応じて町独自の対応策を行っていく覚悟で財政基盤の安定と持続性を確保しつつ、基本目標の実現のための政策的経費、特に第一次産業の振興や、子育て支援の充実等に資する経費を盛り込んだ予算編成を行っていきたい。

来年度予算の方向性について

問 今議員

令和3年度（2021年度）予算について、コロナ時代を見据え、政策や施策の方向性を追求して予算編成をすべきと思うが、町長の考えを伺う。



※会計年度任用職員=これまでの臨時職員などのこと。